

**南アルプスを未来につなぐ会
第1回理事会 議事録**

年月日	令和4年1月7日(金) 13:00~16:00	
場所	静岡県庁本館 4階特別会議室	
参加者	理事	<p>会長 山極壽一(WEB)(総合地球環境学研究所長) 副会長 佐藤洋一郎(ふじのくに地球環境史ミュージアム館長) 副会長 大城和恵(WEB)(山岳医療救助機構代表) 秋道智彌(山梨県立富士山世界遺産センター所長) 川勝平太(静岡県知事) 小宮山花(WEB)(光岳山小屋管理人) 鈴木康平(十山株式会社代表取締役社長) 清明祐子(WEB)(マネックスグループ株式会社取締役代表執行役COO兼CFO) 藪田靖邦(川根本町長) 竹田謙一(WEB)(信州大学准教授) 辰野勇(WEB)(株式会社モンベル代表取締役会長兼CEO) 田辺信宏(代理出席)(静岡市長) 徳地直子(京都大学教授) 原田憲一(前至誠館大学学長) 松井孝典(千葉工業大学学長) 松田裕之(WEB)(横浜国立大学環境情報研究院教授) 松本亮三(東海大学名誉教授) 山崎宏(NPO法人ホールアース研究所代表理事)</p>
	事務局	<p>くらし・環境部 市川部長 くらし・環境部 高畑部長代理 くらし・環境部 織部理事(南アルプス環境保全担当) くらし・環境部 田島理事(南アルプス自然保護担当) くらし・環境部自然保護課 高松課長 くらし・環境部自然保護課 上家室長(司会) くらし・環境部自然保護課 辰巳課長代理 くらし・環境部自然保護課 小林班長</p>
内容		
司会	<p>それではただいまから、南アルプスを未来につなぐ会の理事会を開催いたします。 まず川勝知事の方が、急用が入りまして、遅れてにはなりますが、出席となりますのでご了承いただければと思います。 まず本日の出席者をご報告いたします。 詳細は、本日の資料の出欠状況一覧表に代えさせていただきますが、理事の皆様25名のうち、この場にお越しにいただいている方が10名、ウェブでのご出席が7名、代理でのご出席が1名、計18名の理事の皆様にご出席をいただいております。 なお、山極会長におかれましては、本日出席のご予定でしたが、急遽必須の予定が入りましたので、本日はウェブにて、開会のみのご挨拶とさせていただきます。 それでは、山極会長から、開会の挨拶をお願いいたします。</p>	
山極会長	<p>皆さん、聞こえますかね。皆さんあけましておめでとうございます。山極でございます。本日お集まりいただきましてありがとうございます。私の方はいろいろ抜けられない会議が山積しておりまして、今日はそちらにお伺いできません。この後も、ちょっと別の会議に出まして、また時間があれば、何とか復帰したいと思っております。 さて、今年の正月は、随分寒くございました。 おそらく、南アルプスもすっかり雪景色で白く、雪化粧だったろうと思います。 皆さんお風邪を召されなかったでしょうか。しかもですね今年に入ってから、オミクロンの暴発が起こっておりまして、なかなか移動しにくい、或いは会議のような人の集まりというものなかなかできにくい状況になっております。未来をなかなか見通せない現状ではございますが、こ</p>	

	<p>れから大きな希望に満ち溢れた、南アルプスを未来につなぐ会、この内容について、是非とも慎重なる、そして、希望に満ち溢れたご審議をお願いしたいと思っております。</p> <p>今年は、私自身の感想を述べさせていただきますと、大きな転換期に差しかかっているのではないかと思います。経済政治もそうですが、文化もそうです。我々は、この新しい時代に向かって、何か新しい提案をすべきなんだろうと思います。とりわけ、人のお金の使い方、或いは人の暮らしのデザインの仕方、移動の仕方、それぞれがこれまでとは違った形で展開されるのではないかと思います。</p> <p>特に静岡県という、東京から車で1時間半、或いは2時間ぐらいで行ける場所というのは、新型コロナウイルスの傘下にあっても、或いはこのコロナ後の社会にあっても非常に重要な位置を占めていると思います。とりわけ、山と海という自然の偉大な懐に抱かれた場所というのは、これから都会で住んでる方々にとっては、いい隠れ場になる、或いは、そこでまた都会ではできないような仕事ができる。そして、ワーケーションと呼ばれるような、趣味と実益と仕事を兼ねたような場所になり得るだろうと思っています。ですから、非常に今後のですね大きな可能性を秘めた場所なんだろうと思います。</p> <p>ぜひそういったことも含めて、この南アルプスという場所を再検討していただければと思っております。</p> <p>すでにいろんな方から方からご意見をいただいているようでございますので、ぜひそれを紹介していただきながら、皆さんのお知恵を拝借して、是非とも、良い構想が生まれることを祈っております。</p> <p>長くなりますので、私の挨拶はこれぐらいにいたしまして、これから副会長の佐藤洋一郎先生にバトンをお渡しいたしますので、ぜひよろしく願いいたします。</p>
司会	山極会長ありがとうございました。それでは山極会長におかれましてはここで退席となります。
山極会長	また復帰しますので、よろしくお願いいたします。
司会	<p>ありがとうございます。</p> <p>松田先生もしよろしければ画面をオンにいただけますでしょうか。今お顔が出ないような状況となっておりますので、松田先生、聞こえてますでしょうか。ありがとうございます。こちらでもお顔を見ることが出来ますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは早速ですが、議事を進めさせていただきますと思います。</p> <p>まず、今回の理事会の議長ですが、先ほど山極会長からお話がありました通り、会長がこの後、議事は欠席されます。当会の規約第13条では、理事会の議長は会長が務めることになっておりますが、今回の理事会においてはですね、先ほど山極会長からご指名がありました通り、佐藤副会長に代行いただきたいと思いますが、皆様いかがでしょうか。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>それでは佐藤副会長、よろしくお願いいたします。</p>
佐藤副会長	<p>それでは、皆様からご承認をいただきましたので、この会の議長を務めさせていただきます。</p> <p>山極さんの代わりというのはいささか荷が重いのですが、今日は3時終了を予定しております。皆様どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>早速ですけれども、議事に入らせていただきます。</p> <p>初めに、議事番号の1、南アルプスを未来につなぐ会会則の改正及び理事の選任について、事務局からご説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>資料に従いましてご説明をさせていただきます。</p> <p>では、議事資料1、南アルプスを未来につなぐ会会則の改正と題した資料をご覧ください。</p> <p>本会会則につきまして、これまでに生じた課題等を踏まえ、より柔軟かつ機動的に対応するため、いくつかの条項の改正についてお諮りしたいと考えております。</p> <p>まず、役員改選についてですが、川根本町長の鈴木理事におかれましては、任期満了により町長をお辞めになり、藪田町長を後任にご指名いただきましたが、現在の会則では、役員改選は総会に諮ることとしており、書面改正もできる規定がございませんでした。おかげさまで会員数も順調に増えまして、500名を超え、今後さらに会員数を増やすことで、本会をより発展させていただきたいと考えております。会員が増えることは大変喜ばしいことなんですけれども、反面、総会の開催は簡単ではありませんので、より機動的な運営を行うため、理事会で判断できる事項を充実させたいと考えております。つきましては、役員改選や会則の細かな修正等は、理事会において、意思決定を</p>

	<p>行えるように修正したいと考えております。無論、重要事項等、総会に諮るべきと、理事会または会長が判断すれば、総会に諮る形は残しておきます。</p> <p>これらを整理し、総会と理事会がそれぞれ所掌する、議決事項を集約し、新たに第14条として設けました。また、会長の都合により、副会長が会を進める場合の規定等を加えさせていただきます。</p> <p>それでは、2ページ目、新旧対照表をご覧ください。</p> <p>まず、第7条の2項ですけれども、役員を総会で選任する、その部分を削除させていただいております。</p> <p>次に第8条の2項、会長が事故ある時という表現を会長が特段の事由により、その任に当たることができないときは、と改めました。</p> <p>3ページ目をお開きください。</p> <p>第9条では、補欠の役員とか前任者の、といった表現のままでは、追加の理事等の選任がある場合には対応できないため、表現を改めさせていただきました。</p> <p>次に、第12条2項の総会の所掌事務は、14条にまとめさせていただきました。</p> <p>さらに、同条の6項に、総会の書面開催の規定を加えさせていただきました。</p> <p>続いて4ページをお開きください。</p> <p>第13条の2項は、会長が不在の場合の議長の規定を加えました。</p> <p>また、3項に、理事会も必要に応じて書面開催できる規定を設けました。</p> <p>14条には、総会と理事会の決議事項を集約し、役員の選任のほか、速やかに処理すべき事項を理事会で議決できるように修正しております。</p> <p>簡単で恐縮ですけれども、会則の改正についての説明は以上です。本改正案をご了承いただければ、引き続き川根本町長の菌田様への理事へのご就任についても併せてお諮りしたいと思います。</p> <p>よろしくご審議のほどお願いいたします。</p>
佐藤副会長	<p>それではまず今二つのことがございましたけれども、会則の改正についてご意見があれば、挙手をお願いいたします。</p> <p>ウェブの方もいらっしゃいますので、挙手をお願いします。いらっしゃいませんか。よろしいですか。</p> <p>いらっしゃらないということでしたら、今、ご提案のありました会則の改正案は、採決されたということにさせていただきます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、菌田川根本町長の本会理事へのご就任につきまして、ご異議のある方いらっしゃいますでしょうか。</p> <p>異議なしということだと思います。</p> <p>それでは今回の理事会の承認によりまして、菌田川根本町長さんに、新たに当会の理事にご就任をなさいました。</p> <p>ここで新たに理事にご就任いただいたということで、一言ご挨拶をお願いいたします。</p>
菌田理事	<p>改めましてご承認いただきまして、ありがとうございます。就任して、2ヶ月あまりですが、私も、南アルプスの麓、川根本町長になってから、いろんな思い、またこうした会があることも以前から存じてはいたんですけども、こうしたメンバーに加えていただけること、うれしく思います。</p> <p>精一杯子供たちのためにも、南アルプスを未来につなぐことを理念に、しっかりと取り組んで参りたいと思いますので、よろしくお願いを申し上げます。ありがとうございます。</p>
佐藤副会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>菌田理事におかれましてはお忙しいとは存じますけれども、今後とも会の運営につきまして、ご支援とご協力をいただきますように、お願いを申し上げます。</p> <p>続きまして、議事番号の2、本県の取り組みについて、事務局からご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは議事資料の2、南アルプスの保全・魅力発信に向けた取り組みと題しましたカラーA4横版の資料をご覧ください。</p> <p>まずその2ページ目をお開きください。</p> <p>県では、昨年度から県内の高校と協同しまして、絶滅危惧種の増殖に取り組む、南アルプス高山植物種子保存プロジェクトを開催いたしました。当初1校から始まったこの取り組みは、今年度新たに5校が加わり、着実に次代を担う世代へ環境保全の重要性が浸透していると実感しております。</p>

それでは3ページ目をお開きください。

南アルプスは奥深く急峻なことから、調査研究が十分に進んでおりません。そこで、静岡大学及び高校生と協同し、南アルプスいきもの探索プロジェクトを立ち上げ、微小生物の新種等の発見に繋げる取り組みを開始いたしました。

続いて4ページ目をお開きください。

ニホンジカによる高山植物の食害対策としては、ボランティアの方々のお力をいただき、防鹿柵の設置を行ってまいりました。南アルプスのような高所では、鹿を捕獲しても、人力では下ろせないため、死骸を埋めて処理するほかはありませんが、熊や小型の肉食動物等を誘引し、ライチョウ等の高山帯の生態系に影響を与える恐れがあるということから、今まで捕獲はしてまいりませんでした。一方、鹿柵等で守っているだけでは、シカの個体数の増加を防げないということから、今年度、初めて食害地でのニホンジカの試験捕獲を実施し、生態系への影響についての調査を開始したところです。

5ページ目をお開きください。

急峻な地形のため、学術的に未調査となっている場所では、今年度から新たにドローンを活用し、植生調査を行いました。結果、最終的に絶滅危惧種を含む9ヶ所、合計 4,000 株以上の群落を新たに発見することができました。

6ページ目をお開きください。

今やテレビ放送などを凌ぐほどの影響力を有している SNS を活用し、南アルプスの魅力を発信しております。登山系のユーチューバーのかほ氏や当会の理事であります、山岳系インスタグラマーの gakujo_aya 氏との連携に加え、職員が自ら南アルプスに出向いて YouTube に動画を投稿するなど、登山者や世界に向けて、南アルプスの美しさ・楽しさを発信しております。

7ページ目をご覧ください。

これがつなぐ会のイメージですが、本会を7月 14 日に設立し、8月 19 日にキックオフのイベントを開催する予定でしたが、ご承知の通りコロナの影響で残念ながら順延となっております。後で詳細ご説明いたしますけれども、2月 19 日に開催したいと考えております。会員も1月6日現在で 513 名の方にご登録いただいております。

8ページ目をお開きください。

このほか、県民、国民に応援をいただきながら、南アルプスの環境を保全するため、南アルプス環境保全基金を設置しております。ふるさと納税の活用により、どなたでもご協力いただきやすい形としておりますので、ぜひご友人にもお伝えいただけますよう、よろしく願いいたします。

9ページ目をお開きください。

続きまして、令和4年度の県の取り組みについてご説明いたします。

生態系の保全に向かう取り組みのうち、生物多様性の保護につきましては、防鹿柵の設置について、今までの箇所に加え、荒川小屋裏と本谷山、熊ノ平に新たに設置したいと考えております。

種子保存プロジェクトなど、高校生たちと連携した絶滅危惧種の保護は、今年と同様に継続します。

仮称南アルプス学術フォーラムにつきましては、最後に詳しくお伝えしますが、今年度に立ち上げ、課題の検討を始め、来年度は、若手研究者への助成制度等の立ち上げ等を行いたいと考えております。

10 ページをお開きください。

魅力の発信に向けた取り組みとしては、今年度から南アルプスに関わる研究者の方々に講師になっていただき、ユーチューブで無料配信をしており、現時点で 10 本の動画で 5,400 回を超える再生がされており、そのうちの1割の方が海外からとなっております。

YouTube カレッジに加え、ドローンによる植生調査も、近年にない成果を上げておりますので、来年度も継続したいと考えております。

南アルプスの魅力の発信のために、今年度開発中のアプリは、こちらから一方的に情報を発信するだけではない、双方向モデルを目指しております。また、アプリには、南アルプスの自然環境やその周辺の暮らしを含めた繋がりを、子供たちの学校の学習と結びつけて問題形式にし、学びながら、南アルプスを身近に感じてもらえるようなソフトを教育学部の学生さんたちと連携して作っていきたいと考えております。

簡単ですが、以上で県の取り組みについてご説明を終わります。

佐藤副会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>今の内容につきまして、ご意見のある方は挙手をお願いします。いかがですか。ウェブの方も手を挙げていただきますと、ありがたいのですが、どうぞ。</p>
徳地理事	<p>京都大学のフィールド科学教育研究センターの徳地と申します。よろしくお願いいいたします。</p> <p>大変すばらしい取り組みで鹿の害というのは、私たちの研究林でも問題になってるんですけども、この9ページにございます、鹿の新規の柵ですね、これの大きさなんかはどんな感じになっているんでしょうか。</p>
事務局	<p>基本的にはですね、(高さ)1m80ぐらいの、やわらかいフレキシブルなポールにネットを張るといったような、そういったものを予定しております。面積はですね、それぞれ場所によって違うんですけども、広いところだと、200m四方ぐらいです。</p>
徳地理事	<p>いろいろな地形のところですね、ちょっとややこしいんですけども、フラットなエリアはつけやすいんですけども、やはりいろいろな地形でつけることが、多様な樹種を守るのに大切かなと思いますので、ぜひご検討いただければと思います。もうご検討いただいておりますら申し訳ありません。よろしくお願います。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。そうさせていただきます。</p>
佐藤副会長	<p>他はいかがですか。</p>
秋道理事	<p>秋道でございます。</p> <p>取り組み素晴らしいですよ。ただね、世界への発信という時に、例えば、自然遺産は日本にいくつもありますね。世界にもたくさんあると。そしたらね、高山帯で生物の多様性とか、獣害の問題とかね、いくつかのくれるポイントがありますんで、その海外発信をするときに、世界のね、何かターゲットになるような、ワールド・ヘリテイジ或いはサンクチュアリでもいいですけどね、ちょっと探して、それをやってる海外の研究者にコメントをもらうとかね、なんかそういう取り組みもやった方がいいのではという、これは意見です。</p> <p>それからもう一つは、長くならないようにします。ニホンジカね、捕って埋設するとおっしゃいますとね、急なところで、それでちょっと、知事にも申し上げたいんですが、金かかりますけれど、ヘリコプターで運んだらいいんじゃないですか。人間が雪崩で死んだらヘリコプターで運ぶでしょ。鹿も、ねえ。人間じゃないんだけど、ヘリコプター使ったら金かかるんでちょっと問題かもしれませんが、そういう提案でございます。ありがとうございます。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。またそういったことも含めて検討したいと思います。</p>
佐藤副会長	<p>今の海外発信のところは私も全くそうだと思いますね。</p> <p>どれだけ海外に向けて情報を出すかということは極めて重要でしょうね。</p> <p>他いかがですか。どうぞ。</p>
松本理事	<p>ニホンジカの捕獲も試験的になさっているということで、防鹿柵を随分設置されるということですが、もう一つニホンザルが稜線の方まで出てきているという問題があると思うんですが、これに対しては何らかの対策が講じられているんでしょうか。</p>
事務局	<p>今のところですね、ニホンザルについては特に対策はとっておりません。</p> <p>今後ですね、いろんな研究者の方から情報をいただきまして、対策が必要であればですね、その対策についてもまた検討させていただきたいというふうに考えます。</p>
佐藤副会長	<p>それでよろしゅうございましょうか。</p>
原田理事	<p>鹿の話ばかりで申し訳ないですが、日本中で問題になっていますから、県知事会で食糧資源として、もっと活用することを検討すべきだと思います。ただ捕獲して埋めるのではなくて、畜産の一つとして考えるべきじゃないかと。私は猟師さんから鹿肉をたくさん貰っています。すごくおいしい。料理法によって様々に楽しめます。ですから単に数を減らすんじゃなくて、鹿の恵みをいただいて感謝するというようなところまで持っていった方がよいでしょう。南アルプスだけの問題に矮小化すると、解決は難しいかなという気がいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>南アルプスでどの程度の活用ができるかってのは今後の課題かと思えます。里山の方ですと、もうすでに農業の方の補助金で、食肉加工施設の建設が補助できるようになっておりまして、各農林事務所の単位でですね、そういったところをなるべく作ってほしいということで地元の方にもお願いしてかなり、最近では増えて参りました。2時間ぐらいでやっぱり味が落ちてしまうので、なるべく山に近いところに、簡易的な施設をたくさん置くというのが何か有効だというふうに聞いておりますので、またそういったことについてもまた今後研究していきたいと思えます。ありがとうございます。</p>

佐藤副会長	ありがとうございます。 ウェブの方もどうぞ。ご発言をお願いいたします。よろしいでしょうか。
松田理事	松田ですけどよろしいでしょうか。
佐藤副会長	松田さん、どうぞお願いします。
松田理事	南アルプスユネスコエコパークの中としてはですね、大鹿村はジビエ、鹿の有効利用ではむしろ全国的にも、先進地域だと思いますから、そういうのと連携すればいいんじゃないかと思います。以上です。
事務局	ありがとうございます。また、情報をいただきたいと思います。
佐藤副会長	それではまだあるかもしれませんけれども、今後のことにつきましてはまた後でも出てくると思います。
事務局	1名どなたか上げてらっしゃる方いらっしゃいます。すみません。
佐藤副会長	竹田委員ですね、よろしくお願いします。
竹田理事	信州大学農学部竹田と申します。よろしくをお願いいたします。 1点教えていただきたいんですが、令和3年から防鹿柵を新設する荒川、それから本谷山、熊ノ平の3ヶ所なんですけども、現状、いわゆるお花畑の状況としては、かなりその被害の程度というのはかなり深刻までいってるのか、或いはまだまだ被害が出始めた頃なのか。そのあたり、現状として状況をもしご存知であれば、教えていただければと思います。以上です。
事務局	場所によって様々なんですけど、一部についてもかなり被害が進んでいて、実際に柵で囲ってそれが復元できるのかどうなのか、というところから確認しなければならないようなところもございますので、例えば3年間続けて本当に再生できなかったらじゃあその次はどうするのかと、その時点で考えるとかそういったような形で対応していきたいというふうに思っております。
竹田理事	ありがとうございました。
佐藤副会長	ありがとうございました。他はいかがでしょうか。 それではまたあの、今後のことはまた議論する場がございますので、そちらでということにいたしまして、以上で議事番号2番は終了したいと思います。 県におかれましては引き続き、南アルプスの自然環境の保全と、魅力の発信ですね、これについて取り組みの推進をお願いしたいと思います。 続きまして、議事番号の3番です。 会員等との繋がりに関する取り組みにつきまして、事務局からご説明をお願いします。
事務局	それでは議事資料3-1をご覧ください。 8月19日に開催できませんでした設立記念のイベントを、改めて2月19日に開催したいと考えております。 テーマはですね、「南アルプスを未来につなぐためには」と題しまして、山極会長に基調講演を行っていただいた後に、まず、現在、希少種であるタカネマンテマの冷凍種子の発芽研究を行っております、磐田農業高校に研究成果の発表をお願いします。 次に、活動報告として、鹿柵の設置など、長年高山植物の保護活動を行って来ております、南アルプス高山植物保護ボランティアネットワークの鶴飼さんから発表いただきます。 続きまして川根本町、静岡市の順で取り組み紹介をしていただきます。 最後に、山極会長の進行で、フォーラムを取りまとめるお立場で佐藤副会長、若者への情報発信のお立場で gakujo.aya 理事、環境教育のお立場で山崎理事、それに現役の高校生を代表しまして、成果発表をお願いした、磐田農業高校の生徒さんにパネラーとなっていただきまして、パネルディスカッションを行う予定であります。 イベントの概要は以上ですけれども、現在コロナの第6波が迫りつつありますので、開催の形式はウェブによる配信も含めて考えていきたいというふうに思っております。設立記念イベントにつきましては、以上です。 続きまして議事資料の3-2をご覧ください。 会員との繋がりを深めるために、より多くの方に南アルプスに関する様々な情報を届けるため、つなぐ会の会報誌を作成したいと考えております。イベント等では紙ベースのものをお配りする予定ですが、基本は電子媒体とすることで、いつでも、過去の号も見られるようにしていきたいと考えております。各季節ごとに年4回を基本とし、会員の方にはメール等で配信し、一般の方でも見られるように、ホームページにも掲載していくつもりです。 内容としましては、理事の皆様からの寄稿や、南アルプスの旬な情報、豆知識やイベント情報など、電子媒体でするのでなるべく盛り沢山に掲載していければというふうに考えております。

	<p>創刊号では、まず、山極会長の寄稿文から始めまして、各関係者の取り組み紹介や、山々の美しい写真なども掲載し、一般の方にもアピールできるものにしていきたいと考えております。3ページ以降にイメージのペーパーをつけさせていただいておりますので、ご確認いただけますでしょうか。</p> <p>そこの最初のページにもございますけども、会長の方から、せっかくですから会報の名称をです、理事の皆さんからご意見をいただいたらどうかというふうに言われております。本日も欠席の理事もいらっしゃいますので、名称につきましては後日メール等により、改めてご照会をさせていただきますので、それまでよくお考えいただければありがたいと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>以上で議事3の説明を終わります。ご審議のほどよろしくお願いいたします。</p>
佐藤副会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>皆様いかがでしょうか。どうぞ。</p>
鈴木理事	<p>十山の鈴木と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>設立総会のイベントとか、会報発行とか、誠に素晴らしいことなんですけれども、一つ設立記念イベント、今まで自然保護課さんでやってこられた高山植物の講演会というのが、似たような時期にあったんですけれども、それは並行して、別途あるのか、もしそれがこういう形で衣替えするとすれば、県民の方々が、南アルプスの話を聞く機会が1回減っちゃう、1回減っちゃったら増えるってことにならないので、今までであったものも、続けてやった方が良いのかなっていうふうに思います。</p> <p>あと、会報です。会報はよろしいんですけれども、もしかしたら趣旨が違うのかもしれないけれども、エコパークの、静岡地域連携協議会っていうものがございまして、そこで、「いかわね新聞」っていうものを、やっぱり年4回ぐらい発行しています。なのでそこ一緒になった方が、今までのやるものもあるし、これからのものもあるし、より充実するのかなんていうふうに思いました。以上です。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。先ほどのですね、最初のイベントについてなんですが、今回はできればタイアップしたような形でやっていってより多くの方に知っていただきたいというところで、一緒にやろうかなと思っております。</p> <p>そして「いかわね新聞」ですけれども、そちらも存じておりますので、その辺が二重にならないようにというか、お互い連携しながら、それぞれ進めていけるような形で、今後調整して参りたいと考えております。</p>
佐藤副会長	<p>ありがとうございました。他はいかがでしょうか。原田さんどうぞ。</p>
原田理事	<p>「京都伝統文化の森推進協議会」という組織に所属しています。広報活動の一環として、理事の一人である芸術大学の先生を選考委員長として、キャラクターを公募しました。どんぐりの妖精「くーりん」と京都三山を守る「京だらぼっち」を選び、ワッペンとバッジをつくりました。イベントがあったときに配って、好評を得ています。芸大生の協力を得て紙芝居も作りました。静岡県にも文化芸術大学があるので、南アルプスを代表するキャラクターをデザインさせていただいて、イベントの時に配るとか或いはサポーターの会社にそういうロゴを積極的に使ってもらうとか、そういう仕掛けをして運動を広げていくという方法も検討してみたいかがでしょうか。</p>
佐藤副会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ゆるキャラなんてのもありかもしれませんね。</p> <p>他はいかがでしょうか。大城さん、よろしくお願いいたします。</p>
大城副会長	<p>大城です。ご苦労さまです。</p> <p>イベントとか、すごくご苦労されて開催されると思うんですけど、多分これは会場開催で、ハイブリット開催では今のところないのかなと思うんですけど、会の対象とか内容とか、結局今までの自然保護とか、そういうことに興味を持って人にか向いていないんじゃないかなと思うんです。</p> <p>結局今まで既存の会とタグを組むっていうことは、新しい人脈とかターゲット層の開発にはあまり向いていないんじゃないかなと思われまして、もっと広く一般登山者が興味を持って来るだとか、今まで自然保護にあまり関心がなかった人たちが参加できるような形でうちちょっと、これが多分今までとあんまり変わらない人達しか来れなくなっちゃうのかなっていうのが一つの懸念です。</p> <p>やっぱり南アルプスだけで物事をやっていくのは非常に難しいと思うので、何か一つのテーマを決めてうちちょっと全国的なネットワークを作って、その中の一つにするとかっていうふ</p>

	うにやっていかないと、南アルプスだけでやっていくのはちょっと厳しいところはあるんじゃないかなとは思いました。以上です。
佐藤副会長	辰野さん、手挙げてらっしゃいますどうぞ。
辰野理事	<p>モンベルの辰野です。よろしくお願ひします。</p> <p>先ほどからいろいろお聞きしてて、少し先ほどご意見された方と同じような意見なんですけど、どっちかという、室内イベントということになっているのかなと。</p> <p>南アルプスを考えるのは、南アルプスの中で、フィールドに身を置いて、実感として感覚をとらえてもらいたいということが一つです。</p> <p>それで、実は私どもの方で、長年にわたって取り組んでいるイベントがありまして、それが「SEA TO SUMMIT」というイベントです。「SEA」海から、頂上「SUMMIT」まで、具体的に言いますと、海をカヤックで6キロから10キロ漕いで、そこから自転車で、登山口まで漕ぎ上がって、そこからさらに頂上へ目指すと。こういうイベントです。これはあくまで環境イベントでありまして、決して1等2等競うものじゃないわけです。前の日には必ずシンポジウム、環境シンポジウムというのを行います。</p> <p>これに参加しないと、いわばリアルなレースも出れないんですけども、こういった場で、例えば、そういう見識の高い皆さん方の基調講演等いただきながらシンポジウムをして、明るく日は、みんなでそれを胸にしなが、いい汗流して頂上を目指すというようなイベント、今、全国で、ここ1年はコロナで実施がちょっと難しくなってますけども、実施して12年になりますけど、今年は12ヶ所開催することになってます。これは年に1回のイベントなんで、実際は、素晴らしい自然は365日あるわけですから、それをいつでも来て、体感してもらいたいということで、ジャパンエコトラックという取り組みもやっております。</p> <p>これ座長には養老孟司さんになっていただけてますけれども、カヤック、自転車、ウォーキング、登山で、日本国中を旅をするという、こういう取り組みです。これ今現在20ヶ所ぐらいでやっておりますけど、静岡というのはまさに海と山、特に南アルプスってのは海に近いですから、そういったイベントを検討いただければいいんじゃないかなというふうに思いました。以上です。</p>
佐藤副会長	ありがとうございました。他に皆さん、どうぞ。お願ひします。
鈴木理事	今のモンベルの辰野さんのお話を聞いて思ったんですけども、非常に良いアイデアなので、こういうイベントっていうか催しを考えるための部会みたいなものを設けて、辰野さんみたいな方からアイデアをいただいて、こういうのを企画するっていうのはいかがかなというふうに思いました。
佐藤副会長	ありがとうございます。そうですね、そういうこともどうぞご検討いただければと思います。他はいかがでしょう。どうぞ。
松本理事	先ほどのご意見の中でも、もう少し広い活動があつていいんじゃないかというお話がありましたが、エコパークは、日本であり、一般の方々に認識されていないところがあると思うんです。私は、志賀高原のことにもちょっと関係しているのですが、そちらも同じような悩みを抱えていますので、他のエコパークとも連携をとりながら、こうした雑誌を出したり或いはシンポジウムを開催したりということをやっていくというのも大きな力になるんじゃないかと思ひます。以上です。
佐藤副会長	ありがとうございます。皆様、せっかくお越しいただけてますので1回はご発言をお願ひしたいと思っております。どなたでも結構でございます。中西さんが途中から入ってこられましたんですけども、中西さん何か、一言お願ひできますか。すいませんどなたでも結構であります、山崎さん、お願ひします。
山崎理事	<p>ホールアース研究所の山崎と申します。普段富士山麓で、環境保全、観光振興などやっているんですけども、このつなぐ会、今本当にたくさんのいいアイデア出てきたなというふうに思ひます。</p> <p>こうしたものが、議事録の中に埋没しないように、先ほど部会っていう話もありましたけれども、これ間違いなく息の長い活動になると思ひますので、どんどんアイデアが蓄積されていって、何も今年全部消化しなくてもいいわけで、これは来年やろうとか再来年やろうということで、どんどんいいアイデアを都度蓄積していって、それはオンラインもオフラインもインドアもアウトドアも、多種多様な活動できるんじゃないかなというふうに思ひますので、ぜひ議事録の中に埋没しないような、そういう仕組みが欲しいなというふうに、改めて今思ひました。</p>
佐藤副会長	ありがとうございます。

	<p>おっしゃる通りだと思います。せっかくオンラインが使えるようになってますので、それはいろいろなやり方があると思いますので、そういうことも積極的に、考えていただきたいと思います。もう一言二言ぐらい、ご意見を聞いておきたいと思うのですが、どうぞお願いいたします。すいませんお名前からお願いいたします。小宮山さんですか。</p>
小宮山理事	<p>小宮山です。よろしく申し上げます。光岳小屋の管理人になりました。初めましてよろしく申し上げます。</p> <p>今年休業だったんですけども、小屋の方に行きますと、今までは(コ)バイケイソウは鹿には食われてなかったんですけども、(コ)バイケイソウを頭の上を、もう、お花が全部ないぐらい食われていたりですとか、実際に身を置いて、感覚として、シカの被害を実感したりですとか、山小屋の準備をしている中で、実際に動いてみるとわからないことがたくさんあったりだとか、こういうふうに山小屋は、仕組みがこうあって、環境に配慮してできているんだとか、動いてみるとわかることが多くて、やっぱり自分の目で見て、自分の手で触ったりですとか、歩いたりですとか、そういうふうに身を置いて実感するっていうのをすごくこの1年、いや去年1年感じました。なので、南アルプスの魅力を考えるときに、できれば、やっぱり自ら身を置く、身近に感じられるようなことをこちらでも発信できたらいいのかなあとと思います。</p> <p>うまく言えなかったんですが、今後ともよろしく申し上げます。</p>
佐藤副会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ちゃんと伝わっております、大丈夫です。</p> <p>他はいかがでしょうか。</p> <p>事務局にお願いしたいのは、これ理事会をやって意見を拾うということもそうですが、いろんな格好で、リアルタイムにっていうか、逐次意見が拾えるようなそういう仕組みを作っていただいて、思いついた時にパッとこう、何らかの格好で発信できるようなそういう仕組みを作っていただくと、もっといろんな意見がたくさん出てくるような気がしますので、その辺のこともご検討をお願いをいたしたいと思います。</p> <p>ということで一旦、この議事番号の3はこれで終了させていただきます。先ほど申しましたようにいろんな方法でもって、ご意見がちょうだいできればというふうに思っております。</p> <p>それでここでご報告が一つございますが、川勝理事におかれましては所用のため、ここまでのご出席となります。ご退席にあたりまして一言頂戴できればと思います。</p>
川勝理事	<p>どうも、遅刻して参りまして、早引きということで、誠に申し訳ございません。</p> <p>この間、この会が立ち上がりまして、磐田農業高等学校が皮切りになりまして、こちらから声をかけたわけでもないのにも関わらず、5つの高等学校の生徒さんたちが南アルプスに入っていたいて、新しいものを見つけていただいた。これはとってもありがたいことだと。</p> <p>この5つの高校は、県内の高校ですが、確か県外でもですね、愛知県だったと思いますけれども、関心を持ってくださっているところができてきたと。ですから、この会の意義が非常に大きいと思いました。</p> <p>それからドローンをですね、今回初めて活用して、1,000株に渡るお花畑を人が行けないところで発見したと。これもこの間に起こったことでございまして、やはりこの会が発足して、もう少し実態を正確に知ろうということと同時に、新しい技術ができたってことですね。</p> <p>それから、先ほど京都大学の徳地先生から出ました、鹿の話ですね。それを受けて秋道先生、また原田先生、今の小宮山さんからも出ましたけれども、もちろんジビエとしてですね、もちろんこれ生きてるものですから、それなりの感謝を持っていただかなきゃいけないのですけれども、実は小宮山さんがおっしゃってるように、この鹿害はですね、2、3年でどんどん子供ができるので、鹿のポピュレーションはものすごい勢いで、繁殖を続けておりまして、そして猟友会の数も高齢化も進み、私は自衛隊にですね、出動を願ったんですけども、法律上できないと。私はあの、実は伊豆半島にもものすごい鹿がいて、伊豆半島向こうが海ですから、鹿と共存している奈良の例があるじゃないですかと。鹿を、天城の向こうに追い込んで、そこでどっかで囲んでですね、ポピュレーションをですね、管理して下さったらどうですかと言ったんですけど、法律上できないとおっしゃったですね。武器を持たないんだからやっってくださいって言っても、それはできないと。</p> <p>OB会でやったらどうですかってのは、OB会になっても、隊友会っていうんですけども、階級下がってですね。なかなか簡単に言うわけじゃないそうです。</p> <p>要するに今、非常に困って、それでこういう柵というところでやっているとということですね。ですからきちっと共生するための方法が必要だなということで、南アルプスは今、鹿の害によってで</p>

	<p>すね、希少な植物や生物が、命を奪われるという、お互いにこの命を育むためにです、共存的な状況になってると、こういうことでございます。</p> <p>それから発信に関してですけれども、ここはユネスコのエコパーク、バイオスフィアリザーブということでですね、これはもちろん静岡県だけでなく、長野県と山梨県合計 10 市町、静岡県では、静岡市さんと、今日理事になっていただきました川根本町さんが関係してございます 10 市町で、エメラルドネックレスという構想もあるわけですね。</p> <p>グリーンのエメラルドでやってるから、皆で大事にしていこうというふうにあるんですが、一方でこれは佐藤先生は今、ふじのくに地球環境史ミュージアムの館長先生を務めていただいているんですが、その前に富士山がですね、世界文化遺産になった時に、前任者は安田喜憲先生だったんですが、環境考古学と富士山という、すごい学術雑誌をですね、2013 年から、どのぐらい発行されたか知りませんが、非常にレベルの高いものを発行されてきたわけです。</p> <p>その 2013 年の翌年に、南アルプスがユネスコのエコパークになったと。従って、あと2年ほどです、10 年目の報告書を出さないといけないと、富士山もですね実は、もう、3回ぐらいですね、報告書を求められたわけです。これは山梨県とだけやったわけですが、そういう学術的に、世界の人類の共有財産ですので、発信をしなくちゃいけないと。</p> <p>ですから、多くの南アルプスにある自然を愛する方々への発信だけではなくて、人類の共有財産を預かっていると。この未来につなぐ会も、それなりの役割をですね、そこで果たしていただければ、本当にありがたいというふうに思う次第でございます。</p> <p>静岡県の観点から言えば、南アルプス赤石山脈はですね、ずっとこの稜線沿いに富士山を仰ぎ見ることができるので、富士は父赤石は母と、父母に見守られながら、父母に傷をつけないようにですね、これ守っていかなくちゃならないという、そういう思いでおりまして、ワッペンのお話が出てきましたけれども、富士山にはふじっぴーというですね、ぬいぐるみがあるんですが、くまモンと大分違いますね。誠に反対を向くのも大変ぐらいな、ところがふじっぴーの、何て言いますか。絵があるんですよ。それはコピーライト全部うちが持っているものから、自由になると。</p> <p>そのふじっぴーが、恋人をですね、持つなら南アルプスかなと思ったりしてですね、上手にこれを両方とも人類の共有財産ですので、生かしていただければなと。</p> <p>それから皆さん遠慮されてっていうか県の方で遠慮してるのかもしれませんが、南アルプスにトンネルが掘られると、25キロのトンネルが掘られるわけです。そういうのが一部掘られ始めてますけれども、こうしたものが、一つの間報告が出ました。それからこれから生態系について議論を、国の方でなさっていくかということでございますので、こういうですね、報告についても、やはりこの、つなぐ会の方々にご共有していただくのが望ましいのではないかと。こういうふうに思っております。</p> <p>ですから発信については、自由な発信と同時にですね、この世界的ないわば、義務感を持った形での発信もしなくちゃならない時期が1、2年でやってくるということでございますので、そのあたりどっか念頭に置いていただければとは存じます。</p> <p>ともあれ、若い人にこの裾野が広がってきているということを大変ありがたく思っております、今日も活発にですね、違う分野の方たちが、ご発言をいただきまして、ゴリラの専門家の山極先生もですね、地球をジャングルと見てられておりまして、ジャングルの中で、どういうふうにして、動物と人間が、或いは動物同士がですね、生物同士が共存するかってことでございますので、大きな観点から、ぜひこの会を育てていただければというふうに思う次第でございます。</p> <p>どうしてもやむを得ない事情がございまして、ここで中座をさせていただきますことをご了承願います。ありがとうございました。</p>
佐藤副会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは議事を再開いたします。議事番号の4番、設立総会を踏まえた各委員会らの意見等につきまして、かねてメール等でご意見を聴取いただいておりますけれども、それにつきまして事務局からご説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは議事資料4をご覧ください。理事の皆様方にはお忙しい中、アンケートにご協力いただきまして、誠にありがとうございました。アンケートでは、南アルプスの環境保全、利活用、情報発信に関する課題と対応、その他自由意見も併せていただいております。その内容につきまして資料4の1枚目にご覧いただけますように、課題ごとを整理させていただいております。</p> <p>この課題に記載のない部分だけ、ご紹介させていただきます。</p>

	<p>自由意見といたしまして、伝統の芸能や料理等文化の発掘、地元の歴史民俗学者らによる研究会を実施したらどうか、というご意見でありますとか、南アルプス学の確立とその成果を産業活性化や学校教育へ反映すべきと。</p> <p>また、自然破壊にならないような観光事業を目指すべき。</p> <p>また、本会はリニアのような政治的案件とは切り離して議論すべきである。</p> <p>また、写真や風景画のコンテストを行うべきである。</p> <p>また、ヨーロッパアルプス等との地質学的違いをアピールすべきである。</p> <p>また、南アルプスでは、生態系破壊等を招く恐れのある大規模な改変は抑制すべきである。</p> <p>また、本会は、静岡県のみではなく、3県が積極的に関わるものとして、拡大していくべきである。</p> <p>また、利用促進には、環境負荷等を軽減できる計画立案が不可欠である。</p> <p>当地の価格を維持するため、それらの価値を維持するためのコストに訪問者自らがコミットできる仕組みが必要である。</p> <p>このような、非常に参考になるご意見をいただいております。</p> <p>アンケートのご意見に加えまして、本日これからご議論いただきました意見とかご提案をですね、事務局の方で整理させていただいて、本会の今後のですね、活動方針案のようなものを作成したいと考えております。それをまた次回の理事会の中でお諮りしたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いたします。以上であります。</p>
佐藤副会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>今日のメインの議題はこれでありまして、今、事務局からご説明いただきましたものにつきまして、いかがでしょうか。ご意見を頂戴するわけですが、論点が多岐にわたりますので、できればこの資料の4の一番上の項目に沿って、一つずつご意見を聞いてみたいと思いますので、まずその生態系のところからですね、そこから話を聞いてみたいと思いますが、いかがでしょうか。なかなか整理が難しいので、多少いろんなところに跨っていただいても結構ですが、主にこの生態系に関するところで、いかがですか。では秋道さんどうぞ。</p>
秋道理事	<p>鹿はちょっと置いといてですね、ライチョウなんですけど、富山県で、北アルプスのね、ライチョウの個体群を調査してるんですよ。個体群の大きさとか、糞だとかね、いろんな調査やってますので、ここともすごく密、濃くというか、南アルプスと密接な関係があるので、特にライチョウについてはですね、日本海から太平洋まで、縦のベルトで考えていただきたいと思います。</p>
佐藤副会長	<p>ありがとうございます。まず皆さんのご意見を聞いてみたいと思いますので、どんどんお出してください。どうぞ。</p>
鈴木理事	<p>すみません今はこの1の生態系の中のお話ということなんでしょうけれども、今、事務局からは、これらの課題を事務局の方で考えて、活動方針を決めていきたい、次の理事会で諮りたい、ということでしたけれども、これ全部出てるのはすべて重要な課題だと思うものですから、検討するにあたってその緊急性とか、すぐできるとか、お金がかかるとか、なんかそういう、選考する基準を作って取り組みの優先順位を決める、なんかそんなような、こういう基準でもって、この南アルプスを未来につなぐ会はこの活動方針にしましたっていう、その選ぶ過程がわかるようなものにしていただけたらいいなと、全体的な話ですけど、思いました。以上です。</p>
佐藤副会長	<p>わかりました。</p> <p>すごく重要なことですよ。そもそものところあります。</p> <p>他にも聞いていこうと思いますがいかがでしょうか。</p> <p>ではこの1番の南アルプスの環境保全に関する課題、5項目ほどありますけどこれ全部、全部まとめていきましょかね。</p> <p>あんまり細かくしても、出てきにくいようですので。お願いします。</p>
藪田理事	<p>新参者で、初めて参加させていただくわけですけども、いずれにしても、先ほど知事の話で、ふじっぴーと南アルプス、父と母というような話があったんですけども、認知度として、どうやってこれからいろんなことで発信していくのかなということが、一番私はベースだと思ってまして、にぎわいか保存か、いろんな意味があると思うんですけども、すべてを網羅してやっていくには、やはり最初に認知度を考えて、物事に取り組んでいっていただければなど。私は南アルプスの麓にいますが、いろんな意味で、そういったことの中で、これから先、南アルプスへの関心、そこをやはり中心に物事を考えていっていただければ、生態系も当然そうですけども、先ほど私も、今、知事もリニアの話をしたんですけども、私どもも今取り組んでるところがやはり</p>

	<p>生態系とか盛土、そういったものの中に於いて、実は午前中も国交省、鉄道局との話し合いの中で、そんな話もありました。</p> <p>いろいろな人の考えと知恵を借りながら、すべてにまたこういったものの課題が整理されていくと思うんですけども、いずれにしてもやはり認知度をもっともっと広めていっていただきたいのと、それにはどうしたらいいかなということなんです。以上です。</p>
佐藤副会長	<p>ありがとうございました。徳地さんお願いします。</p>
徳地理事	<p>徳地です。</p> <p>今、認知度というお話があったんですけども、南アルプスを将来に続けて保全していく、守っていくってことは誰のためか、ということを考えて、そこで自分のためだと思わないと多分人は何もしてくれないと思っています。それで南アルプスはあなたにどんな恩恵をもたらしてくれてるかっていうことになりますと、わたし専門が水なので、おそらく水はその一つかなと思ってます。南アルプスがあなたの水道の飲み水にどんなふうな恩恵をもたらしてくださってるかっていうことを、下流の方にまず知っていただいて、南アルプスがどういう状態であって、どんな水をあなたたちは飲んでいるかっていうところは、やっぱり皆さん気になるんじゃないかなと。姑息な手段と言ったら何ですけど、自分が身近なところから、どんどん上流に上がっていったらいいようなアプローチがあると、いろいろな人、山が好きの方だけじゃなくて、皆さんの目が南アルプスにまずは向いてくださるかなと思いました。以上です。</p>
佐藤副会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>上流下流の問題ってのはそうですね、非常に重要ですね。</p> <p>さっき大城さん、今のご発言に関連しそうなことを言ってらっしゃったので、ご意見を聞きたいと思うんですが。</p>
大城副会長	<p>今の徳地先生のお話とは直接関係はないんですけども、課題の1番のところ、北海道は結構鹿ですね、鹿に対する対策は結構きっちりやっていて、結構減ってる方、ある程度減っていると思うんですけど、人のいない田舎の、西興部村とかあるんですけど、そこは鹿撃ちのスクールみたいなのをやって、鹿撃ちがないのでスクールをやって、本州から撃ちに来て、撃ち方を覚えてもらったり、鹿を撃つっていうことを、ひとつ学んでいただいたりなんてことをしてるので、そういう撃つ人を育てることを一緒にやりながら鹿撃ちをしてもらってるってこともあるので、何かそんなこともちょっとやってみてもいいんじゃないかなと思いました。以上です。</p>
佐藤副会長	<p>ありがとうございました。他はいかがですか。お願いします。</p>
清明理事	<p>マネックスの清明と申します。よろしく申し上げます。</p> <p>私はビジネスとは関係なく個人的に登山が趣味ということもありまして、この会に参加をさせていただいております。その観点で、登山という観点で申し上げますと、登山仲間ともよく言うのですが、どうしてもですね、私自身百名山を制覇しようと思って、今ずっと全国回っているんですけども、どうしても南アルプスって残ってくるんですよ。</p> <p>これアクセスが悪いとか、あとは1回行くと、なかなか日帰りもしくは1泊2日では行けないとかですね、誤解を恐れずに申し上げますと、登山仲間の中では、どちらかというと北アルプスの方が山小屋良いよねみたいなそういったお話があったりですとか、どうしても行きやすいところから行ってしまうような感じになっていて、そういう中でなぜ南アルプスなのかっていうところがなかなか伝わっていないんじゃないかなと思っていて、魅力、じゃあ何があるのか、先ほどの水の話もございましたけれども、いろいろ全国に美しい環境や、自然に触れられるところがある中で、何で南アルプスなんですかっていうところを打ち出していく内容ですとか、認知度を上げていくために、何なのかっていうところを、もう少しやはり見つめながら、しっかりと、最近若い人で自然の環境のことを考えている人もしくは登山を楽しんでる人も多くなってきておりますので、SNSを活用した認知度の強化ですとか、そういったものを図っていく必要があるんじゃないかなというふうに思っております。</p>
佐藤副会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>どうも今日のキーワードは認知度のようにありますけれども、もちろんそれ以外でも構わないですけども、松井さん何かございますでしょうか。</p>
松井理事	<p>私もまさにその認知度。ほとんど私は知らないんですよ、南アルプスのことをね。</p> <p>静岡県から頼まれて、別に自然保護に関して何か異議を唱える理由もないので引き受けたんですが、非常に消極的な理由で引き受けていて、だからこの今、南アルプスを未来につなぐ会の、その目的っていうのをね、よく見てもこれ全くわかんないですよ。</p>

	<p>これ別に南アルプスじゃなくてどこだって通用するような話であって、こういう羅列的に目的を書いているようなものってのはそもそも私は会の意味がないんじゃないかと思うんだよね。だって南アルプスって地域の問題でしょ。</p> <p>例えばだけど生態系だとか、自然保護だとか、いろんな問題ってのはグローバルな問題ですよ。もうちょっとそのところ整理して、こういう問題があるんだ、それをどう解決していくのか。その時に、やっぱりその対象は県民なのか、日本国民なのか、世界なのか。そこだって明確じゃないですよ。</p> <p>それから、こういうことをやっていくときには普通は工程表っていうのがあってね、何年かで、例えば毎年こういうふうにしてこの問題はやってきますとか、工程表を作んなきゃ駄目なんです。それも全く見えないでしょ。ここでただいろんな議論が出てのを事務局に投げてるだけです。事務局がこんなの全部処理できるわけじゃないですよ。</p> <p>だからこういうことをやろうとするんだらば、もうちょっと組織として、本気でやるんならね、何かそれこそ組織が必要です。</p> <p>というように、私のような立場から見ると感じますね。ですから、これ別に南アルプスの何とかがっていうのを別に他の会の名前に変えたって全く通用するような話ばかりしててね、個別にはみんなそうだと思いますよ。</p> <p>だからそういう会でよければ、私的にはあんまり認知度は上がらないんじゃないかと思えますけどね。</p>
佐藤副会長	<p>おっしゃることは全く、ごもっともだと思います。さっきからいろんな意見が出ておりますけど、やっぱりこの理事会の中で何かするというと並行してですね、少し具体的なアクションが起こせるような、そういう何て言うんですかね、名前はともかくとして、何かそういうボディを作らないと駄目かもしれないですね。その辺のところは、また県の方でちゃんと考えていただくことにいたしましょう。どうぞ。</p>
藺田理事	<p>申し訳ない。今先生言われるようなことで、基本目的を持たないと絶対、例えば伊豆の西海岸とか、富士山とか、そういった目的意識があるとするなら、皆さんがにぎわうんですよ。だからこの南アルプスをどういうふうを考えて物事をとらえていくかっていうことがやっぱ一番。新参者で前の資料を見させていただいたんですけど、だから認知度をどうするかということをしつかりととらえていかないと、やはり先生言うように、そういったことになってしまうような気がしています。</p>
佐藤副会長	秋道さん。
秋道理事	<p>松井さん、その通りだと思います。それでね、僕はおかしいなと思うのね。自然保護で言ったらね、他でもできるところあるんですよ。ただね、何かおかしいなという、僕ちょっと今、霊峰、聖なる、山の本を書いたんだけど、南アルプスにね、白山、立山、富士山、それから熊野ね、ああいうところの山はね、修験でしょう。で、お寺があつたり神社があつたりするんだけど、南アルプスって何があるんですかというのが僕、気になって、ここに何か、自然科学と人文科学両面で学術研究って書いてあるけど、一体何の話やと。それがね、僕はちょっと調べようと思ってんですよ。それがわかれば、結構ね、歴史がね、介在して何で修験の人が、南アルプス入らなかつたのか、とかね。</p> <p>それとさっき大鹿村の話出ましたよね。で、大鹿村は塩見岳の、登山口なんですよ。それで北岳が日本で2番目に高い山でしょ。だからね、なんでやと。山梨県に行ったら身延山とかあるでしょう。修験ですよ全部。だからねその辺のこともね、我々も話聞いただけじゃなくて、調べて。それから中央構造線があるでしょ、一方で、大鹿村はね。だからね、もうちょっとね、特異的な現象、或いはおかしいと思うことをね、歴史振り返って、調べることをやらないと、問題がもう羅列になって、誰でもできる、生態系サービス論とかね、そんな話。或いはSDGsみたいなね、何でもありみたいになっちゃうとね、面白くないんで、何とかやりたいです。</p>
佐藤副会長	<p>だんだん話が面白くなってきたんですけど、竹田さんが手を挙げておられます。竹田さんいかがでしょう。</p>
竹田理事	<p>先ほどから会場に出てのご意見をお聞きして、その通りだなんていうふうに思うのと同時に、先ほどから会場から出てのご意見を拝聴するにつけ、理事の皆さん方が、南アルプスに対してあまり愛着がないのかなというふうにもちょっと正直残念にも思ったところもあります。</p> <p>それで先ほどから環境保全に関する活動に向けてどのように意識付けたいのか、そういった意味での認知度をどうやって上げようか、そういった議論になっているかというふうに理解しています。そういう中で、例えば、もう今から十五、六年前ですけども、南アルプスの仙丈ヶ岳っていうところ或いはその北岳というところをちょっと例にとってみると、仙丈小屋の宮下さん、</p>

	<p>或いは山梨県側でいきますと、芦安山岳館のお亡くなりなられた塩沢さんとか、そういった現地に足を運ばれているような方が、古くから高山植物がもう衰退している、今手を打たないと危ないということを切に訴えられて、それでようやく行政が動き出したといったような歴史もあります。また、皆さんご承知のように、世界自然遺産とかそのエコパークの議論、私も一部関わらせていただきましたが、静岡県が中心となって、南アルプス学といったものを作成いたしました。そういったものが、残念ながら、かなりの時間、或いは労力をかけて作ったにもかかわらず、なかなかその日の目を見ていない。そういったところから今日のような、その認知度の低さには繋がってるんだろうというふうに思います。</p> <p>いわゆるその教育的な部分、その認知度というところになってきますけども、例えば今私が長野県で関わっているのは、地元の中学生在が学校登山という形で、仙丈ヶ岳に登る機会があります。そのときには、事前学習ということで、今仙丈ヶ岳でこんな問題が起きてるとどこで大体1時間ぐらい話をするんですけども、それで、山に登ってもらっています。おそらく静岡県でも似たようなことがあるのかもしれませんが、いわゆるその、小学生、中学生、高校生そういったところに、何で今南アルプス全体を保全しなきゃならないのか、或いは何が起きてるのか、そういった子供たちへのその教育という部分を、重点を置いてですね、やっていただければ、自ずと今南アルプスで何が起きていて、なぜ今保全しなきゃいけないのか、そういったものが、静岡県のみならず、周辺の県に対してでも、普及していくんではないかなというふうに思っていますので、事務局の方におかれましてはぜひ、今回2月にイベントを行われるということですけども、頻繁にですね、小中高に向けての情報発信とか、何らかのその教育のあり方というところに、この話を盛り込んでいただければなというふうに思います。以上です。</p>
佐藤副会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>当事者のご発言として非常に説得力のあるご発言だったと思います。</p> <p>他はいかがでしょうか。さっきから中西さんが、出たり消えたりしちゃってるんですが、他はいかがでしょうか。ぜひ、いろいろなご意見をいただいた方が、事務局の方も整理がしやすくなると思いますので、ぜひお出しいただきたいと思います。よろしくお願ひします。</p>
鈴木理事	<p>十山の鈴木ですたびたびで恐縮です。</p> <p>認知度っていうか、情報発信とかは、こう言っちゃうと、何か薄っぺらいのかもしれませんが、広告代理店みたいなところの知恵を借りるっていうのも、ありじゃないのかなとちょっと思います。目的、誰に何を伝えるのかっていうのを、こちらで定めた上で、良い方法を助言をいただくっていうのもありなのかなというふうに思いました。</p> <p>あと、すいません、ちょっと見過ごしてたんですけども、Web アプリの開発っていうのが、今年の目標のところであって、子供向けっていう、何か教育のためのソフトを作られるのかなって思ってたんですけども、よくよく見ると、その『南アルプスの美しい景色とかの、画像や動画の投稿サイトを設置』って書いてありまして、統合サイトをわざわざ、県で作ることはないんじゃないかな？ インスタグラムとか、今もうフェイスブックもやられて、ユーチューブもやられているので、世界の人が検索しやすいように、『#ジャパンスザンアルプス』とか、そんな『#(ハッシュタグ)』つけるとか、みんなでそれをつけるようにしようとか、あと協賛してくださる、つなぐ会の会員の会社、ふるさと納税をしてくださる会社、と、ここの YouTube とか、インスタグラムとリンクするとか、そんなことでも足りるのではないかなんていうふうに、この Web アプリの開発の二つ目の点のところはそういうふうに思いました。以上です。</p>
佐藤副会長	<p>ありがとうございます。さっき竹田理事からお話のあった『南アルプス学』について、もう少し詳しくご紹介をいただきたいと思うんですが、多分知らない方がいっぱいいらっしゃるんだと思いますけど、もう少しご補足いただけますか。どうでしょうかそちらの方からもしお話しいただければと思いますが、田辺(静岡市)さんご存知ですか。</p>
田辺理事 (藪崎局長)	<p>私もですね、静岡大学の増澤先生にもご指導をいただいて、南アルプス学というものを冊子を取りまとめをいたしました。実はまとめた当時はですね、結構バイブルのような形で、関係者の中ではですね、きちんと読み込まれていたんだろうと思うんですけども、実はそれエコパークに、平成26年に登録をされましたけれども、何となくそれ以降はですね、ちょっと存在感が薄れてきてしまってるのかなあというふうに思っております。</p> <p>幅広くいいですか様々な側面からですね、いろいろ調査をさせていただいて取りまとめたものですのでございますので、すぐに皆さんにお配りできるような体裁のものではございませんけれども、もし、入り用であればですね、関係部分だけでもご提供できるかなというふうに思います。</p>
佐藤副会長	<p>ありがとうございました。</p>

	<p>Webにも公開されていると思いますので、あれはぜひ、あのままにしておくのはもったいないなと思いますので、何らか何かの機会である掘り起こしていただきたいと思います。辰野さんでしょうか。お願いします。</p>
辰野理事	<p>今、我々が取り組んでいるちょっと事例を幾つかご紹介したいと思うんですけど、まず一つは、徳地先生、京都大学の方とも結ばせていただいておりますけど、包括連携協定っていうものを、今県の単位でいや、それから市町村の単位で、70以上、その他の大学、等々との包括結ばせていただいているんですけど、そのクライテリアってというのが、七つありまして、一つ目は『環境保全』、二つ目が『子供たちの生き抜く力』、これすべてアウトドアをキーワードしてるわけですけど、三つ目が『健康寿命の増進』、四つ目が『災害時における対応力』、五つ目が『地域の環境を活かしたエコツーリズムを通じた地域経済の活性』、六つ目が『農林水産業の支援』、七つ目が『バリアフリー（高齢者を含めた）』。これすべて自然環境、それから今、今日、我々が抱えてるテーマでもあるわけですね。</p> <p>その中で、やはりその自然環境の保全と利活用、このバランスが僕は大事だと思うんです。モンベルも今、環境省と、いわゆる国立公園のオフィシャルパートナーということで、連携させていただいておりますけど、『保全』と『利活用』、この二つの車の両輪だと思うんですね。</p> <p>保全すべきところと利活用すべきところ、この辺のところの議論が、今回の会議の中ではあまりなされていないように思いました。</p> <p>やはり地域が今抱えている大きな問題は、『過疎化』、『高齢化』、そして地域に人が住まない地域ってというのは保全、と。</p> <p>だけではやはり、その価値が半減するというか、先ほど徳地先生が仰ってました『水は皆の飲み物ですよ』という、自分のものとしてとらえない限りはですね、鹿の問題にしても、どの問題にしてもあんまりこう、環境問題を専門に研究されてる先生方は別にして、一般の人にとってあんまり説得力がないっていうのが僕は感じてるところです。</p> <p>ですから利活用という向きにおいて、先ほど一番最初に僕が申し上げた、シートウサミットとかジャパンエコトラックってというのは、要するに地域経済の活性等、エコツーリズムですね。それと、環境保全の大切さ、これはやはり、最初はやっぱり楽しいことを体験していただきながら、実はやっぱりこんな楽しい環境というのは自然が守られてるから、矜持できるんだと、いうことで肌で実感してもらわないと、ピンとこないと思うんですね。</p> <p>さらに、我田引水で申し訳ないですがモンベルではモンベルクラブという会員組織をやっております。これ年会費1,500円いただいておりますが、これで今現在会員数が100万人を超えております。102万、少し超えました。1,500円いただいておりますから、最初に計算してこれで15億円の軍資金があるわけですけど、こういった軍資金を活用させていただきながら、今申し上げた七つのミッションを、具体的にもあんまり、CSRっていう言葉は、あんまり僕好きな言葉じゃないんですけど、もう一つの事業サービスとしてですね、そして楽しんでいただく、こんなにすばらしい自然があるんだ。</p> <p>一言ちょっと長い話なって申し訳ないですけど、日本では国立公園は無料ですよ。アメリカに行けば当然お金払うのが当たり前なんですけど、こういった受益者負担っていう概念ですね、もうちょっとしっかり持っていて、これだけ楽しませていただいているのに、ただで楽しんでるなんて凄いなことだよという実感をですね、皆さんに享受していただければ、先ほどどなたかが仰ってましたように、この問題は別に南アルプスに限った問題じゃありませんけれども、同時にこの個別の問題でもあるわけですから、その個別の資源をどう活用していくか、少し焦点を絞った形ですね、南アルプスにとってはじゃあ具体的に、何ができるのか何があるのか、そして、それを守っていくためには何が必要かということを議論していくことが大事なんじゃないかな、というふうに思いました。</p> <p>今申し上げた100万人の、モンベルクラブの会員に、アウトワードという機関誌を、年4回配布させていただいておりますけど、間違いなく100万人の方が、ペイして目にさせていただける、決して一方通行のポイントがつくというだけの話じゃなくて、双方向のメッセージを送らせていただける、こういう組織でもあるわけです。</p> <p>またこの議論が重なっていく中で、我々がこの南アルプスの事案に関して、お手伝いできることがあれば、ぜひ、一緒に考えさせていただきたいな、こういうふうに考えています。以上です。</p>
佐藤副会長	<p>ありがとうございます。松本さんどうぞ。</p>
松本理事	<p>今おっしゃったことはまさにその通りだと思いますし、それからこれは、松井先生や或いは秋道先生がおっしゃった事にも通じていると思うんですけども、今のお話にありましたような自然</p>

	<p>環境保全とその利活用の問題ということは、上位概念になるのでしょうかけれど、特に南アルプスだけの問題じゃなくて、どの国立公園であっても言えますし、どのエコパークによっても言える問題なんですね。</p> <p>じゃあ、なぜこの「南アルプスを未来につなぐ会」という組織ができていいのか。</p> <p>まず南アルプスの個性をはっきりさせていかないといけないと思うんですね。だから、その南アルプスという現場に立って、こういうことが言えるんじゃないかと、まず明らかにする必要があります。</p> <p>一方で、他の地域ではこういうものがあるという事を統合したところで、自然環境の保全、或いは利活用の問題というふうな大きな問題へ繋がっていく。こういった図式を描くべきだと思うんです。</p> <p>そうしますと、先ほど秋道先生も仰ってましたけれど、なんでこの南アルプスに修験が来なかったんだという問題の意味も分かってきます。</p> <p>今回出てきている「課題の整理」という資料を見えます。例えばその特殊性ということを見ていくと、1番目の『南アルプスの環境保全に関する課題』の整理の中の「その他」の最初のところに、「南アルプスの環境保全により下部域に広がる自然環境等に与える影響」という記述があります。「日本全体に」ということは省略するにしても、南アルプスの下にあるこの地域の広がりを見ていかなきゃいけない、ということです。その同じことが、2番目の『南アルプスの利活用に関する課題』の整理の「認知度」の項の2番目に、「南アルプスから駿河湾に至る繋がり」の可視化」とあり、それから、最後のところですけども、「伝統文化の学習が可能な地域」だというようなエコパークの大きな特性が書かれています。このように、具体的に、南アルプスがそういった点で、どういふふうに主張ができるのか？ どういふふうな個性を明らかにすることができるのかと、まずそれやっつけていかなきゃいけないだろうというふうにも思いました。</p> <p>そうしたことから色んな各地の、そうした活動と連携しながら、全体的な環境保全と利活用という問題に至っていくという、その筋道を考えるべきではないか、と思います。</p> <p>しかもまたそれは、日本国内で終わるものではなくて、先ほど川勝知事もおっしゃってましたけれど、これは、生物圏の保存というユネスコの大きな計画の中にあるわけですから、ここで出てきている成果というものを、日本語だけでなく英語なりで、概要だけでも発信して、それを続けていくっていうこと、それが大変必要じゃないかと、つまり、地域の特性を明らかにすることをまずやっつけていけばいいだろうというふうには私は、思った次第でございます。</p>
佐藤副会長	<p>ありがとうございます。それは極めて重要なポイントだと私も思うわけで、それで先ほどのその南アルプス学は何であるかというご紹介をしてくださって言ったらやっぱりそこなわけですね。</p> <p>南アルプスの地域を一つの地域としてとらえた場合に、しかも我々、我々っていうのはその当事者として住んでる人たちにとって何かと。やっぱりこういう観点を持たない限り、やはり議論するのは前に行かないというふうにも思うわけです。</p> <p>山極さんが早く戻ってこられたようですので、山極さん今、最後のところ、この皆さんからいただいた色んな意見を事務局の方が南アルプスの課題という形で整理しておられるわけですが、皆そこの議論をしているところで、実に多様なというか意見が出てきてるわけですが、急に振って申し訳ないんですけど、山極さんはこの課題のところをどういふふうにも考えてらっしゃるのか少しご披露いただきたいと思います。</p>
山極会長	<p>すみません。突然振られたんで、何とも言いようがないですけども、ただ、南アルプスの歴史を考えるとね、中央アルプス、北アルプスに比べて、南アルプスってのはやっぱりアクセスが難しく、登山客が向こうに比べて少し少ないなっていう印象があった。</p> <p>それから、南アルプス、今地域学ということをおっしゃいましたけれども、繋がりますよね。三つの県に跨ってるわけで、山梨県、長野県、静岡県でその、南アルプスという、向こう側から見ると、静岡県だけではなくてその県境を跨いだ、広い繋がりのもとにあって、なおかつ脊梁山脈の非常に重要な部分を占めている、3,000メートル近い山が連なっているわけですから、そういう中で様々なことを考えていかなければならないんじゃないか。</p> <p>しかも静岡県という県だけとってですね、そのアルプスから清涼の水が海に流れ込んでるわけですね。</p> <p>その流域というものをどういふふうにも我々は解釈しそれを利用していくのか。</p> <p>これ『ひとつつながり』のものなんですよ。</p>

	<p>だから、今これから求められていくのは、その流域という繋がりや山という繋がりや、或いは文化という繋がりや、そういった繋がりというものを我々がどう新しく解釈して、それをその産業だとか、いろいろその利用するところにも生かしていく方策を考えなければならないんじゃないかなと思うんですね。</p> <p>その辺りちょっと今、皆さんのご意見を聞いてなかったもので、どうい議論が進んでるのか存じ上げないですが、ここに書かれている、すごくたくさんの課題というのは、私の頭の中で、一つの解決策を出すとしたら、繋がりだという気がします。</p> <p>一つ一つの個別の解決策はあるでしょうが、巨視的な観点から見て、それを未来へどうつなげていけるのかっていうことを、議論した方がいいのかなって気がしました。</p>
佐藤副会長	<p>突然振ってすみませんでした。</p> <p>原田さん。</p>
原田理事	<p>今山極さんがおっしゃった「繋がり」はとても重要な視点です。例えば「川」。先ほど水とおっしゃったが、川が運んでいるのは水だけじゃない。砂とかイオンとかも運んでいます。それを知らずにダムを作って今困っているのがダム湖の堆砂と埋積の問題です。川の水だけを利用しようとしてダムを作って砂の動きを止めたために海岸侵食が起こる。砂浜が小さくなって稚魚の住むところが少なくなる。或いはダム湖にヘドロがたまって、黒四(クロヨン)のようにダム湖の水を放出したら、流出したヘドロで沿岸漁業がいかれてしまう。昔は材木をそのまま流したり、いかだで運んだりしていました。舟運も重要だった、わけです。ですから、そういうものを見直してみる。</p> <p>たとえばアリューシャン列島に富士山と似たような火山がいくつもあるけど、富士山とは何が違うか。そこに我々が文化を感じるか感じないかです。富士山を見れば、『竹取物語』や葛飾北斎の「富嶽三十六景」、林武の「赤富士」など、色んな物語やイメージが湧き出てくる。だけどニュージーランドで富士型の山を見ても、「なるほど」っていう位で何の感動もないわけです。</p> <p>資料としていただいた『南アルプス学術総論』を読むと、かつて南アルプスで人々がどうい暮らしをしたのかが少し書いてある。修験道の話とか木こりさんの話とかです。そういうものを本格的に現代の目で見直してみる。</p> <p>しかも長期的に見れば、今みたいに石油がじゃんじゃん使えるという時代は終わりに近づいてます。我々はもっと個別的な自然と細かく上手に付き合わなければいけない。海と近い南アルプスの場合、海的生活から山を見ることが出来る。山から海的生活も平地の生活も見ることが出来る。そういう意味では、脱石油時代の生活モデルを考えるうえで、好都合な立地だと思うんです。</p> <p>自然科学的に南アルプスを論じることは重要ですが、それと同時に、歴史的に人間は南アルプスと海と平野部屋とどんな関係で付き合ってきたか、ということにも視点を当てて総合的に研究すべきだと思います。</p>
佐藤副会長	<p>そろそろいろんな、いろんなご意見が出てきたところではあるんですけども、あえてまとめることはしませんけれども、結局、あれですよ。当事者の目から見た場合のこの南アルプスってのは一体その何であるかと。それが今原田さんも言われたように、実は我々の暮らしはもう根本のところ相当に危ないことになってきているとこれは皆さんが認めるところなわけですよ。</p> <p>それを南アルプスに当てはめて考えた場合に、一体それはこういうことなんだって、どういうことなんだということを、やっぱりちゃんと認識するということはこれは絶対に必要なことである。</p> <p>自然科学の立場から見ますと、その問題はどこの問題も一緒だという、それはもちろんそれぞれの通りなんですけども、しかしそれはどういうことかっていうと、この南アルプスの地域について我々がどういうことをそこから学んで、どういうことを解決の道筋を求めてというようなことを考えていくという、そこのところを日本全国に発信するとか、それから海外に向けて発信するとか、そういうふうな意味で、何ていうかグローバルな展開が必要だと。</p> <p>まあ、そんなようなことになるのかなあというふうに、話を聞いていて、感じました。</p> <p>ということで、事務局からこういう課題の整理という格好で資料の4番が、出ておりますけども、これはもう一度今日の議論を踏まえてですね、もう一度よく練り直していただいて、それで課題をちゃんと明確にして、静岡として或いはこの南アルプスから流れ下ってくる川やら、その人の通った道ですね。その立場から見てどうなのかというような観点と、それからアカデミックな観点から見た場合はどうなのかということ、そういう整理の仕方をもう一度していただきたいなど。</p> <p>いうふうに思います。</p> <p>秋道さんどうぞ。</p>

秋道理事	<p>さっきから川の話が出ていますね。大井川ですよ。</p> <p>それで僕、実は、静岡県の「森は海の恋人水循環研究会」の顧問してるんですよ。</p> <p>で、その研究会3年やってきて、今度2月で終わりなんですけど、一応ね富士川、狩野川、大井川、安倍川入れて全部集水域毎の土地利用とかね。それから、駿河湾のサクラエビの問題とかもね、やってるんで、大井川の河口部は全部湧水で生活してますよね。大井川の漁港があるんですよ、これ。</p> <p>組合長に話聞きに行ったらね、この水は何で使えて(いるのか?)『もう全部地下水やっ!』て、それで、中流域は茶畑でしょ。</p> <p>それで、上流はまだ林業とかね。ごちゃごちゃありますので、これはねやっぱり集水域で考える発想は、南アルプスの集水域ということで、まずは考えて、それからさっき山極さんおっしゃったように、長野と山梨と繋がってますんで、尾根を越えて、動物が移動するとかね、そういうことも含めて、南アルプスの特徴点をね、山が絡んでいるのでやっぱりこう俯瞰的に見る視点をです、ぜひこの、研究会というか、理事会で、確認をしていただけたら嬉しいです。</p>
佐藤副会長	<p>わかりました。</p> <p>後で事務局から説明があると思いますけど、南アルプスの学術フォーラムっていうのを作っておりますので、そのへんでも、その学術的な面からの検討っていうところが出てくると思いますので、そのへんとの連携ですね。ということにさせていただきたいと思います。</p> <p>それではですね、この議事の4番につきましては、いろんな意見を承ったということで、とりあえず引き取らせていただきまして、その他の事項を事務局からご説明をいただきたいと思います。</p>
事務局	<p>それでは、参考資料の1というペーパーをご覧ください。</p> <p>先ほども簡単にご説明させていただきましたけれども、令和2年度に南アルプス環境保全基金を創設いたしました。県の一般財源から1億5,000万円、ふるさと納税の仕組みを活用して寄付金を5,000万円集めて、計2億円を積んで、南アルプスの環境保全に活用したいと考えております。</p> <p>寄付金の状況ですけれども、資料では、すみません令和4年12月となっておりますが、令和3年の誤りですので申し訳ありません、修正をお願いいたします。</p> <p>その寄付金はですね令和3年12月末現在で、772万円となっております。今後はですね、県外企業等を中心に企業訪問を進めるとともに、広くふるさと納税を通じたご支援をいただけるよう、様々なツールを活用してご協力をお願いしていく予定でございます。</p> <p>続きまして、次の参考資料2-1というペーパーをご覧ください。</p> <p>「仮称南アルプス学術フォーラムの設立について」というタイトルがございます。</p> <p>これは先ほどから何回か出ている名称ですけれども、設立総会でも簡単にはお話ししましたがけれども、南アルプスの自然環境の保全やそれを支えるコミュニティの活性化、そういったものを、これはユネスコエコパークの基本的な理念なんですけれども、それを活性化させるためにも、南アルプスに係る研究活動の活性化が急務だと、先ほどから各委員からいろんなご指摘があった通りですね、やはりその、ここの南アルプスならではの特徴って一体何だろうと、やっぱりその研究が進んでない、研究が進んでいてもそれが埋もれてしまっていてなかなか日の目を見ていないと、そういったことをですね、改善していかないと外に対しても上手に発信できない。</p> <p>それが今後にもですね、繋がっていくということでもありますので、ここで活性化を図っていく、そういった学術フォーラムをですね、設立したいということで、2月中を目途に設立を考えております。</p> <p>取り組みの内容といたしまして、そこに取り組み内容と、1番から7番までありますが、研究者間の連携促進や、研究成果のデータベース化、先ほど言ったような埋もれてしまっているようなものをちゃんと一つのデータベースの中に収めると。そして共有できるようにする。また研究助成制度、そういったものを活用することによりまして、次の世代の若手研究者を育成していくといったような目的であります。</p> <p>つなぐ会の理事様におかれましてはですね、こういった研究課題の審査や報告会、そういったことで、いろいろご指導をお願いできればというふうに考えておりますので、その際はよろしくご協力をお願いしたいと思います。</p> <p>メンバーといたしましては次の2ページ目でございます。</p> <p>佐藤副会長にはですね、フォーラムの会長をお願いしまして、委員には各大学の学長様やセンター長様にご相談しまして、ご推薦をいただいた方々に委員をお願いしております。</p>

	<p>学長様等のお計らいで、実際に南アルプスに入っていただけるような、若手中心の委員構成になっております。</p> <p>研究費助成の制度など、具体的な内容が固まりましたら、改めてこちらでもご案内させていただきますので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>私からの説明は以上です。</p>
佐藤副会長	<p>ありがとうございました。何かご質問ありますか。いかがですか。</p>
山崎理事	<p>質問とかコメントになってしまうんですけども、先ほど議事の中でずっと出てた話で、多分この次とか、この次の次ぐらいに、利用とか、その保全とどうバランスを取るんだとか、或いは賢明な利用とかっていう議論必ず出ると思うんです。</p> <p>我々は全国各地のエコツーリズムの事例、研究もしてますし、私たちがいろんなサポートさせていただいてるんですけども、利用が一周するとですね、必ず、どこまで利用していいのか、このままではオーバーユースじゃないのかって議論が屋久島でも知床でも尾瀬でも必ず出るとですね。</p> <p>その時に寄って立つ学術的な調査、エビデンスってのが必ず必要になるので、ただここはすごく時間と費用がかかるということも認識しているので、ぜひこの今最後お話のあったですね、学術フォーラムのところには、そういう意味でも息の長い地道な活動を期待したいなというふうに思いました。</p>
佐藤副会長	<p>ありがとうございました。他にいかがでしょうか。</p> <p>この学術的な問題というのは実は、学術の外にいらっしゃる方にはちょっと想像しにくいかもしれませんが、今学術っていうのは本当に危ない状況にありまして、私は学術のピンチだと思ってるぐらいなんです。</p> <p>特に頭が痛いのは、若い研究者が育っていないんですね、っていうのはもうどの分野もそうですけども、もう大学なんか見ますと、若い研究者みんな任期付です。</p> <p>3年任期とか5年任期の研究者がすごく多い。</p> <p>その中で息の長い研究しろと言われてもですね、もう本当に大変なわけですよ。</p> <p>だからもうそういう息の長い研究をする研究者、絶滅危惧種に、今もうなりつつあると。</p> <p>そういう中で、その南アルプスのこの今、山崎さんおっしゃいました、そういう基本的に息の長い調査をどういうふうにするかっていうことは、もうこれは若い研究者を発掘するしかもうないと。</p> <p>そういうようなところから始めないとならないという、実は大変危機的な状況にありまして、国やなんかはすぐにノーベル賞を取る研究をせえっていうんですけども、その前にやることあるだろうというふうに私なんかずっとこう考えておるわけです。</p> <p>そういうこともありまして、この学術フォーラムでは、その次の世代の若い研究者の方に何としても、その今おっしゃったような基礎的なですね、そういう研究を続けてもらいたいと、そういう人材を育てたい、という意図がありまして、こういうことになっているということを一言、付言しておきたいと思ひます。</p> <p>ということで、何か今のご説明について、どうぞ。</p>
鈴木理事	<p>たびたび恐縮です。</p> <p>結局、学術っていうのが、息が長くできるためには、やっぱりお金っていうのがないといけなない。結局、いつまでも南アルプスが行政っていうか、行政にお金の面で頼っていいのか。やっぱり民間の方でお金が回って、こういう学術の方にもお金が回る。さっきのモンベルさんのモンベルクラブの1,500円でもそうですね、利用する方が少しずつお金払うみたいな仕組みがいるのかなと。そうすると、やっぱり南アルプスを、いろんなモンベルさんとかホールアースさんとか、あと県内の他の企業が使えるような、そういうような知恵を絞っていかないといけなないんではないかな、と思って、そうやって収益を上げる、上げた部分が、山の研究に還元されるみたいな仕組みを作っていくかないといけなないんではないかなという、そうしないといつまでたっても、お金がないからできないみたいな話になってしまうのではないかなというふうに思いました。</p>
佐藤副会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>おっしゃる通りだと思います。</p> <p>他はいかがでしょう。オンラインでご参加されている方々をよろしゅうございませうか。</p> <p>それではですね一応、今日用意いたしました議事につきましては、議論をしていただいたということにさせていただきますが、今日たくさんいろんな貴重なご意見いただきましたので、これら</p>

	<p>は事務局の方でよくまた咀嚼をしていただきまして、次にそれらが反映された格好で提示できるようにしていただきたいというふうに思います。</p> <p>今日は、いろんなご意見を頂戴いたしまして、理事の皆さんには厚く御礼を申し上げます。どうもありがとうございました。</p> <p>最後の最後になりますけども何か全体を通じて、こうした方が良い、ああした方が良いみたいなご意見はございますでしょうか。</p> <p>さっきちょっと出てきた、この何ていうか分科会っていうのかな、何て言うのか知りませんがちょっとそういう機動的な部会みたいなものを作るというようなことも含めて、ちょっと事務局には検討してもらいたいと思いますが、他はよろしゅうございますか。</p> <p>秋道さん。</p>
秋道理事	<p>規則の問題で書面開催オッケーということでしたよね。</p> <p>それでいいんですけどね。この中で、書面でやる場合ね、メールで送られますでしょ。</p> <p>それで終わりじゃなくて、ちょっと早めに、封筒に入れた、プリントアウトしたものを送っていただくぐらいの余裕で、書面での議論をすると。</p> <p>なんかねいつもぎりぎりなんです静岡県は。ちょっとこれは苦言で。</p> <p>で、新幹線乗って帰りに速達できるとかね、この前もそうでしたけど、よろしく願います。</p>
佐藤副会長	<p>それは、ぜひよろしく願います。</p> <p>他はウェブの方もよろしゅうございますか。それじゃ本当にありがとうございました。</p> <p>進行を事務局にお返しいたします。</p>
司会	<p>ありがとうございます。</p> <p>佐藤副会長、進行ありがとうございました。</p> <p>また理事の皆様、長時間にわたりご協議いただきましてありがとうございました。</p> <p>それでは以上をもちまして、第1回南アルプスを未来につなぐ会理事会を終了いたします。</p> <p>本日はご多忙の中、ご出席をいただき、誠にありがとうございました。</p>